



どんぐり通信

12音の ブックトーク

こまつあやこ / 作

友風子 / 絵

あかね書房

913/J7/YA



中学1年生の初奈は、小学生の頃の経験から、周りに嫌われないように猫をかぶって過ごしていた。朝読書の時間に、まったく同じ日にまったく同じ願いごとの言葉を書くことで入れ替わってしまうペアたちの連作短編集『ことだまメイト』を読んでいた初奈は、終わりに際して今の自分の気持ちをノートに書き込んだ。『もう猫をかぶりたくない』そんな気持ちと不思議な出来事を通しての成長物語。

言葉 を紡ぐ

新しい年の新しい一日。新しいことを始めたい、それを1年つづけてみたいと思った西城春希は、いくつかの決まりをもうけて日記を付けることに。「書くこと」が大好きな春希が過ごす、中学最後の年を日記形式で書いた物語です。

文豪中学生日記

小手鞠るい / 著

あすなろ書房

913/J7/YA



やさしい日本語って なんだろう

岩田一成 / 著

筑摩書房

810//YA



私たちにとっては身近な言葉も別の立場の人から見ればむずかしい言葉になります。日本在住外国人の増加、多国籍化がすすむ社会において、伝わりやすさを目指した簡単な日本語・「やさしい日本語」を紹介するとともに、外国人とのコミュニケーションのあり方について、独自の目線で考察されています。

